

【別紙】仕様課題検討一覧（次年度委託要件）

令和8年9月7日

沖縄県教育庁義務教育課

本資料は、今年度の CBT 学力調査において発生した事象・課題をまとめたものである。次年度の委託業者においては、これらの課題を把握した上で、同様のトラブルを未然に防ぐためのシステム仕様の構築、および運用上の工夫（マニュアル改善、UI 改善等）を事業計画に盛り込むこと。

1. 調査問題の配信・実施に係る課題

【事象・発生した課題】	【次年度に向けた改善・対策の方向性（要件）】
① 教員用事前確認問題の誤配信 教員用の事前確認問題を、誤って生徒に配信・実施してしまうケースが発生した。	【視覚的区別とデリバリの分離】 ・問題名に「【事前確認・教師用】」等と明記し、本番用と明確に区別できるようにすること。 ・誤配信された場合でも、解答データが児童生徒の調査結果データに混入しないようデリバリを分ける仕組みを徹底すること。
② ログイン票作成ルール誤認によるデータ反映エラー あらかじめ指定したリストに対し、学級ごとに空き番号を設けず詰めて名簿を割り振った学校があり、県学力向上 Web システムで学級ごとの結果が確認できない事態が発生した。	【マニュアルの改訂と注意喚起】 ・実施マニュアルにおいて、学級ごとの割り振りルール（空き番号の扱い等）を図解等を活用し田説明で明記すること。 ・誤った名簿作成を防ぐためのチェックシート等を用意すること。
③ 二次元コード非表示に伴う ID 入力ミス 学校端末のセキュリティ設定により二次元コードが表示されず、9 桁の ID を手入力した結果、入力ミスが多発した。	【手入力を想定した UI・運用支援】 ・二次元コードが使えない環境を前提とし、手入力の際の入力ミスを軽減する工夫（入力画面の視認性向上、チェックディジットの活用等）を施すこと。

2. データ集計・連携に係る課題

【事象・発生した課題】	【次年度に向けた改善・対策の方向性（要件）】
① 県 Web システムへのデータ取込エラー 完全解答問題（複数の小問が合って正解となる問題等）の仕様により、MEXCBT から出力されたデータと県 Web システムが要求する取込問題数が合致せず、エラーが表示された。結果として読込データの事前補正作業が生じた。	【取込用フォーマットの完全適合化】 ・県学力向上 Web システムへのデータ取り込みがシームレスに行えるよう、事前のオーサリング調整および動作確認を徹底すること。 ・CSV 出力後に目視確認や手作業でのデータ補正（クレンジング）が発生しないよう、MEXCBT 結果データの形式を厳格に管理すること。

3. 児童生徒の解答・自動採点に係る課題

【事象・発生した課題】	【次年度に向けた改善・対策の方向性（要件）】
① 短答式問題における過剰なエラー判定 短答式の解答において、以下のような入力による「不正解判定」が多発し、目視での確認やデータ補正が必要となった。 ・不要な「単位」の入力 ・小数点の表記ブレ（「、」「。」「・」） ・不要なスペースの混入 ※児童生徒の発達段階やタイピングスキルを考慮すると、全角・半角の切り替えや記号の正確な入力に対応できない可能性が非常に高い。	【児童生徒の入カスキルに依存しないシステム側の入力制限・自動変換】 ・システム側での自動変換（正規化）：全角で入力された数字を自動的に半角として処理し、不要なスペースや小数点として誤って「。（句点）」「。（読点）」「・（中点）」が入力された場合でも、システム側で自動的に「.（半角ピリオド）」と解釈して正解判定する設定とすること。 ・CBT 特性を活かした出題形式：短答式であっても、プルダウン選択やドラッグ&ドロップ（タイル並び替え）など、入力ミスを回避できる解答方式を最優先で設計すること。